南海地震に備えて室内の安全対策してますか? 地震による家具類の転倒を防ごう!



南海地震は、過去歴史的に繰り返し発生し、本県に甚大な被害をもたらしています。

また、今世紀前半にも発生することが懸念されている次の南海地震は、今後30年以内の発生確率が、60%程度と予測されており、本県では震度5強から震度6強の強い揺れが想定されています。

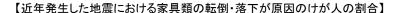
近年の地震による被害は、建物の倒壊に加え家具類の転倒による死傷者が多数報告されており、被害の軽減を図るためには、家具類の転倒防止への取組が必要です。

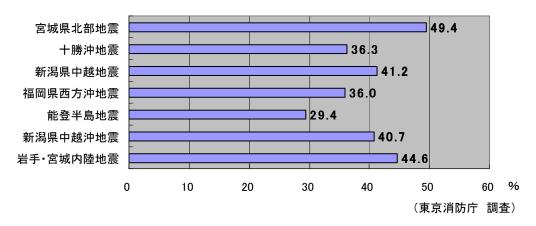
南海地震等の災害に備えて室内の安全対策を実施しましょう。

1. どうして転倒防止が必要か?

近年発生した大きな地震でけがをした原因は、30%~50%の人が家具類の転倒・落下によるものでした。

家具類の転倒・落下により、家具類の下敷きになったり、避難路となる出入口がふさがれたり、 割れた食器やガラスでけがをするなど、多くの被害が発生しています。





災害時における家具転倒の状況



【阪神·淡路大震災 大阪市立大学北浦研究室】



【新潟中越地震 仙台市消防局】

2. 家具転倒防止器具の種類は?

木製家具用連結金具

L型金具

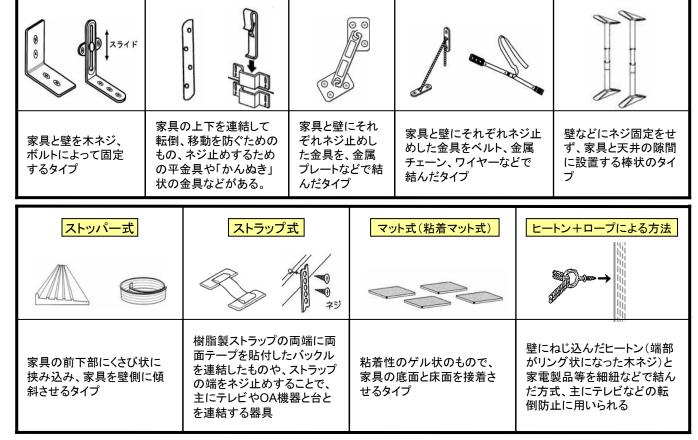
家具類の転倒防止器具には、家具を直接壁に固定するL型金具や、家具と家具を連結する連結用の金具など、色々な種類があります。このような器具は、ホームセンターや建材店、金物店などで販売しています。

プレート式

ベルト・チェーン・ワイヤー式

ポール式(つっぱり棒)

家具の種類や家具を固定する壁や天井の材質・強度により使用する器具を選択しましょう。



※これらのほか、家具と天井の隙間の高さに調整できる段ボールや収納庫などの製品もあります。

3. 家具類の固定方法は?

家具類の転倒防止の基本は、壁の桟(さん)と家具の桟をL型金具で固定する方法です。 壁の桟の位置が家具のすぐ後ろにない場合には、横木を壁の桟に取り付け、その横木にL型金 具で固定します。

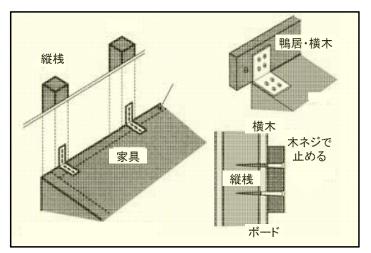
家具側にしっかりとした桟が入っていない場合には、家具にあて木をして固定します。 また、家具が鴨居や横木から離れていている場合には、ベルト式やチェーン式などを使っ

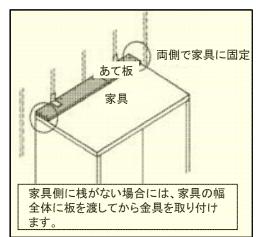
また、家具が鴨居や横木から離れていている場合には、ベルト式やチェーン式などを使って固定します。

L型金具、ベルト式やチェーン式などが使用できない場合で、天井に十分な強度がある場合には、天井と家具の隙間にポール式(つっぱり棒)や隙間を埋める収納ユニットなどを設置して家具を支えます。

上下が分かれている、積み重ね家具は上下を連結して対策を行います。

L型金具での固定方法







ポイント

壁の中の桟を探すことが肝心です。

壁の中の桟を探し出す器具として、ホームセンターなどでは、壁の中の桟を見つけるセンサーやプッシュピンが販売されています。

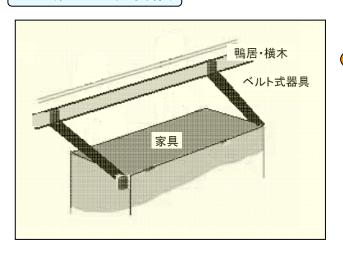
ただ、最近の集合住宅に使用されているS 1壁やG L壁といった防露壁には桟が入っていない場合もあります。壁の種類がわからない時には、建築士など専門家に相談しましょう。

注意

賃貸住宅や分譲住宅などでは、勝手に壁に 金具を取り付けることができない場合がある ので、管理事務所や管理組合に確認する必要 があります。



ベルト式、チェーン式の取り付け



ポイント

家具の上部が、鴨居や横木から離れている 場合は、ベルトやチェーンなどを使って固定 します。

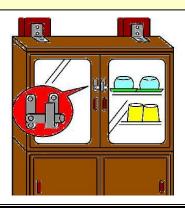
この場合、家具の側面に30°以下の角度で張るようにしましょう。たるみがあると効果はありません。

5. その他の対策は?

家具の収納扉が開いて収納物が落下しないように、扉開放防止器具を設置しましょう。

食器棚などのガラスの破損を防止するため、ガラス飛散防止フィルムを貼り付けましょう。

転倒防止対策に加え、家具の下に重い物を収納して、重心を下げて転倒を防ぎましょう。







平成21年度 地震・津波防災ポスター コンクール

最優秀賞 (小学校4~6年生の部) 藤本和伶さん (阿波市土成小学校) 県では、南海地震発生 時の死者ゼロを目指して、 とくしまーO(ゼロ)作 戦を展開しています。



【お問い合わせ先】

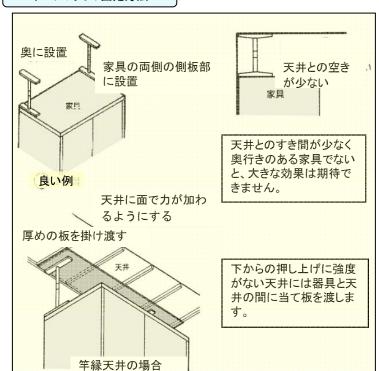
徳島県危機管理部南海地震対策課 防災センター啓発担当

電話: 088-683-2100 ファックス: 088-683-2002 E-Mail: bousaice@mail.pref.tokushima.lg.jp

※家具類の転倒・落下防止対策ハントブック(東京消防庁) からイメージ図を抜粋

徳 島 県・とくしま地震防災県民会議

ポール式での固定方法

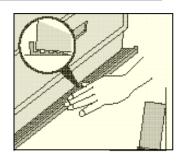




ポイント

ポール式を使用する場合には、天井に十分な強度(コンクリート天井など)があることを確認しましょう。 また、ストッパー式やマット式と併用して、家具の上下で対策をとりましょう。

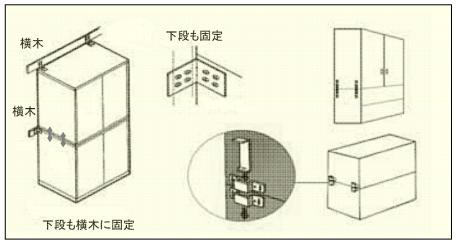
ストッパー式での固定方法



ポイント

家具の端から端まで敷きましょう。 ただ、ストッパー式だけではあまり効果がありません。ポール式などと併用し、家具の上下で対策をとりましょう。

積み重ね家具の連結方法







ポイント

積み重ね家具は、連結金具で上下を連結して一体化したうえで、上部を壁の桟に固定するか、上下の家具をそれぞれ固定すれば確実です。

家電製品の固定方法

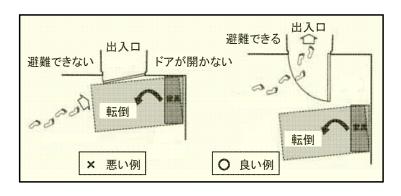
テレビや冷蔵庫、電子レンジなども忘れずに転倒防止対策を行う必要があります。 ただし、家電製品は、日常的に電気を通しており、金具の取り付けにも注意が必要です。 取扱説明書に転倒防止の方法を記載しているメーカーもあります。また、メーカーによっては、 転倒防止器具を用意しているところもありますので、販売店やメーカーに問い合わせてみま しょう。

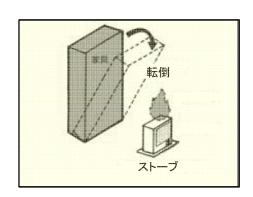




4. 家具類の配置にも工夫を!!

家具類の転倒を防ぐためには固定が大切ですが、住宅の立地や構造など、さまざまな条件に よって揺れ方が違うので、必ずしも万全とはいえません。家具を就寝場所や出入口などから遠ざけ るなど、安全な場所に配置しましょう。





ポイント

家具は出入口付近に置かない、あるいは、万一倒れても通り抜けられる空間を残せる位置に置くようにしましょう。

就寝場所は家具の側方とするか、家具の正面が就寝場所となる場合には、家具の高さ以上に十分な 距離をとりましょう。

家具がストーブに転倒して出火したケースがあります。家具の前面にはストーブなどの火気を置かないようにしましょう。